横路孝弘氏講演資料

幌延（高レベル放射性廃棄物問題）

知事の時に直面した大問題が「高レベル放射性廃棄物問題」いわゆる幌延問題です。この時の政府の対応、特に動燃に対応について、どうしても記録として残しておかなければならないことがあるのです。

突然、幌延町から 1984 年に貯蔵工業センターの誘致ということで要望があったあと、議会で自民党と動燃が積極的に動き出したのです。動燃が道議会の自民党控室に来て、質問作りするほど力を入れておりました。

その時、自民党から「アメリカなど世界に行って、世界の最先端技術の状況を調べて来い」という意見が出て、私もアメリカが、どんな状況なのか、特に高木仁三郎教授から「何万年も先の安全性をどうするか、世界中が困っていて、アメリカの地質研究所などに行ったらいいよ」と言われていたので、すぐにそうしようと決意しました。

自民党の心は、「どうせ、どうすれば良いのか、科学技術庁に問い合せ準備をするだろう」と期待していたようです。

しかし私は、国際交流センターの山本正さんに頼んで、アメリカ国内のスタッフに協力をしてもらい日程を作ってもらったのです。そのスタッフはアメリカ・ワシントン州の上院議員で院内総務をやっている人に相談したのです。

当時ワシントン州は、ハンフィードをかかえ、なおかつ高レベル核廃棄物の候補の 3 カ所のうちの一つでした。そのスタッフと意見交換をして、約 10 日間アメリカを廻り、12 カ所の研究機関、大学そして原子力規制委員会や地質研究所、環境保護庁、エネルギー省、議会技術評価局などを廻りました。関心のある人はぜひその報告書を見ていただきたいと思います。

ところが日程は決まるとビックルした動燃が、私の行く先々へ電話をして「横路知事は日本政府に反対している人間だから、会うのは断ってほしい」と電話を入れていたのです。アメリカに行ってそのことを知りました。しかも訪問の後に、また動燃を名乗って「横路知事はどんな話をして、どう答えたのか知りたい」と言って電話を入れたのです。

さらに私が帰国したのちに、自民党道議団が同じ日程を組んでアメリカを廻ったのです。しかしアメリカでは知事は、非常に尊敬されている地位なのです。アメリカから、あまりにも日本政府の対応がひどいといって、「横路さん絶対に日本政府の言うことを聞いてはダメです」「1 カ所でも穴を掘るのを認めたら、全部そこに集中するよ」「あらかじめ、しっかりした基準をまず作らなければだめですよ」という連絡がきたり、なかにはある政府機関から、「自民党議員がやってきたが、1 人だけ質問したけれど、あとの人は皆寝ていた」という手紙もきたのです。

この訪米調査で、何万年の先のことにもかかわる問題であり、絶対に認めないという強い決意をもつことが出来たのです。

知事をやめて議員に戻ったときに、元原子力委員で科学技術庁の原子力局長がやった島村さんが、関係者を集め、核廃棄物の問題を議論したことがあります。そのテープをおこした、

「島村原子力政策研究会・資料」は全部で620ページの厚いものですが、この記録を読んでビックリしました。

島村	担当しているものが、一生懸命やっているだけで、それが漏れて国会に理事長が呼び出しを受けて、「何の話だ」と理事長が聞いてみたら、「高レベル核廃棄物処理場の問題だった」と初めて知ったのです。「動燃は担当者の言うことと、上の者が言うことが食い違ったり、科学技術庁の言うことが、また違ったりして、ごちゃごちゃになってしまった」
鉄川	よくある話ですよ、動燃はそういうところなのです
田中	動燃ばかりじゃないですよ
島村	原子力委員会どころか、局長である私も知らなかった。

全くあきれた話で、当時、核廃棄物の処理問題について、関係者の間で何の共通の問題意識もなかったのです。すっかり振り回されてしまいました。まだ、未解決の問題として残っているのです。しっかり監視をしていかなければならないと思っています。